

平成29年度 県人会担い手育成招へい事業 報告書

期間：平成29年7月7日（金）～18日（火）



主催：公益財団法人福岡県国際交流センター

目次

・ ごあいさつ	1
・ 概要	2
・ 参加者名簿	3
・ 全体プログラム日程	5
・ プログラム内容	6
・ 参加者等の感想	12
・ 事業の総評	14
・ 参加者レポート／子弟	15
・ 参加者レポート／引率者	26
・ 参加者レポート／福岡県移住者子弟留学生	32
・ 福岡県の海外県人会について	37
・ 実施要綱	38

ごあいさつ

福岡県からの海外移住は、1885年のハワイ移住に始まり、北米さらには中南米と広がりました。移住した人々は、異国の地でお互いに助け合いながら生きていくために「海外福岡県人会」（以下、県人会）を設立し、現在、移住者やその子孫等で構成される県人会は、世界9か国、20か所にあります。

移住者は、言葉はもとより気候、風土など全く異なる環境でたいへんな苦勞をしながら、その勤勉さや誠実さで非常に高い評価を得て、子弟教育等で移住国の発展に大きく貢献してきました。現在では、政治、経済、教育、文化、医療など様々な分野で活躍し、それぞれの国において尊敬と信頼を得る存在となっています。



グローバル化が進展し、本県が国際社会の中、海外との交流を積極的に行うなかで、県人会は移住国との交流の懸け橋として、貴重な財産です。

移住から長い年月が経過し、多くの県人会では、世代交代が進んでいます。県人会活動の中心は、移民の3世、4世、5世などへ移りつつあり、日本語や日本の伝統・文化を知らない世代が増えています。

そこで、県人会の子どもたちを母県へ招へいし、日本文化の体験や同年代の子どもたちとの交流を通じて、福岡や日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、県人会の核となる後継者を育成することを目的に、本センターでは2008年より「県人会担い手育成招へい事業」を実施しております。本事業は、今年で10年目を迎え、これまでに子弟171名、引率者86名が参加しました。

今年度は、8か国11県人会から、子弟20名、引率者10名が参加されましたが、本事業が始まった平成20年度に参加した子弟の一人が、現在、福岡県移住者子弟留学生として県内の学校で学んでいます。本事業で得た経験やネットワークを生かし、参加者の皆さんが、将来、母国の県人会で中心的存在となって、日本・福岡県とのさらなる友好の懸け橋として活躍していただくことを、心から期待しております。

最後に、本事業の実施にあたり、ご協力いただきました海外福岡県人会、福岡県移住者子弟留学生、ホストファミリーの皆さま、及び那珂小学校をはじめとする受け入れいただいた関係機関に心から御礼申し上げますとともに、この事業の今後さらなる発展にご支援いただきますようお願いいたします。

公益財団法人 福岡県国際交流センター
理事長 藤永 憲一

概要

1 目的

海外福岡県人会会員の子弟を福岡県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ることを目的としています。

2 期間：平成29年7月7日（金）～18日（火）

3 招へい者人数：8カ国30名 【内 訳】子弟20名、引率者10名

国名	子弟者数	引率者数
ブラジル連邦共和国	4	1
パラグアイ共和国	1	1
コロンビア共和国	1	1
ボリビア多民族国	2	1
ペルー共和国	2	1
メキシコ共和国	2	1
アメリカ合衆国	7	3
カナダ	1	1
合計	20	10

4 内容

(1) 同年代の子どもたちとの交流

那珂小学校、宗像市小学生との交流デイキャンプ、竹下太鼓グループとの交流

(2) 福岡の魅力に触れる

福岡市内視察（福岡市民防災センター、博多祇園山笠見学）、北九州市内視察（小倉城、いのちのたび博物館、漫画ミュージアム見学）、宗像大社見学、カヌー体験、トヨタ自動車九州工場見学、青少年科学館見学等

(3) ルーツを探る

親戚宅、知人宅、家族会会員、ボランティア宅へのホームステイ

(4) 日本文化の体験

茶道、和太鼓、浴衣着付け、書道、けん玉、手すき和紙うちわ作り体験 等

5 主催： 公益財団法人 福岡県国際交流センター

共催： 宗像市

参加者名簿

【参加者】 8カ国11県人会から子弟20名、引率者10名が参加しました。

No.	県人会名	引率 子弟	氏名	性別	国名
1	ブラジル福岡県人会	子弟	藤井 堤 ライス 恵美	女	ブラジル
2			山里 池田 賢造	男	
3			鹿毛 丸林 龍三 エリキ	男	
4			鹿毛 丸林 カオリ ロレナ	女	
5		引率	南 菜津美 マルガレッチ	女	
6	在ボリビア福岡県人会	子弟	林 健二	男	ボリビア
7			米倉 真生	女	
8		引率	大塚 恵	女	
9	コロンビア福岡県人会	子弟	宮田 ジョセフィン 直子	女	コロンビア
10		引率	宮田 カロリーナ	女	
11	南加福岡県人会	子弟	遠藤 幸	女	アメリカ
12			エリー ケイコ クラーク	女	
13		引率	増田 恩	男	
14	シアトル・タコマ福岡県人会	子弟	マック 芝江奈 山下	女	アメリカ
15		引率	スウェドナー クリスティーナ	女	
16	ハワイ福岡県人会	子弟	ケイトリン ホサカ	女	アメリカ
17			高沢 ジェット 金	男	
18			マックメーン メイソン	男	
20		引率	中村 ローリ	女	
19	ハワイ島福岡県人会	子弟	クック アリエール	女	メキシコ
21	メキシコ福岡県人会	子弟	飯田 ガルシア アンジェル 慈	男	
22			イシイ イノウエ ハヤト	男	
23		引率	林田 行徳 クラウディオ としろ	男	
24	ペルー福岡クラブ	子弟	イノウエ フジモリ フランコ	男	ペルー
25			ミヤカワ ツハ ホセ イグナシオ	男	
26		引率	竹下 クリスティー	女	
27	パラグアイ福岡県人会	子弟	瀧脇 大喜	男	パラグアイ
28		引率	熊谷 清美	女	
29	バンクーバー福岡県人会	子弟	三木 エミリー メグミ	女	カナダ
30		引率	千々和 千恵子	女	

【福岡県移住者子弟留学生】

No.	県人会名	氏名	性別	国名
1	ブラジル福岡県人会	福山 真伊	女	ブラジル
2		太田 砥綿 マリアナ 絵理	女	
3		矢野 マルシア 百合江	女	
4	在ボリビア福岡県人会	徳永 アレハンドロ 勇一	男	ボリビア
5	ペルー福岡クラブ	竹下 ケニー	男	ペルー
6	メキシコ福岡県人会	谷川 フロレス ホアン カルロス	男	メキシコ
7	トロント福岡県人会	合戸 祐	女	カナダ
8	ハワイ島福岡県人会	岩崎 ケリー カオリ	女	アメリカ

「福岡県移住者子弟留学生とは」・・・専門の知識と、日本、そして福岡県についての理解を深めるために、福岡県内の大学に1年間留学している海外福岡県人会の子弟。

【活動グループ】

参加者と福岡県移住者子弟留学生で6つの活動グループを作り、プログラムに臨みました。

Aグループ	子弟：藤井 堤 ライス 恵美 山里 池田 賢造 鹿毛 丸林 龍三 エリキ 鹿毛 丸林 カオリ ロレナ	引率者：南 菜津美 マルガレッタ 留学生：福山 真伊 矢野 マルシア 百合江
Bグループ	子弟：林 健二 米倉 真生 宮田 ジョセフィン 直子	引率者：大塚 恵 宮田 カロリーナ 留学生：徳永 アレハンドロ 勇一
Cグループ	子弟：飯田 ガルシア アンジェル 慈 イシイ イノウエ ハヤト 瀧脇 大喜	引率者：林田 行徳 クラウディオ としほ 熊谷 清美 留学生：谷川 フロレス ホアン カルロス
Dグループ	子弟：イノウエ フジモリ フランコ ミヤカワ ツハ ホセ イグナシオ	引率者：竹下 クリステイー 留学生：太田 砥綿 マリアナ 絵理
Eグループ	子弟：マック 芝江奈 山下 三木 エミリー メグミ	引率者：スウェドナー クリステイーナ 千々和 千恵子 留学生：合戸 祐
Fグループ	子弟：遠藤 幸 エリー ケイコ クラーク ケイトリン ホサカ 高沢 ジェット 金 マックメーン メイゾン クック アリエール	引率者：増田 恩 中村 ローリ 留学生：岩崎 ケリー カオリ

全体プログラム日程

期 日	時 間	内 容	宿泊場所
7 / 7 (金)	終日	入国	グローバルアリーナ
8 (土)	午 前	オリエンテーション	グローバルアリーナ
	昼	歓迎会	
	午 後	小学校での出し物準備	
宗像大社見学			
9 (日)	終 日	宗像市小学生との交流キャンプ	グローバルアリーナ
10 (月)	午 前	いのちのたび博物館見学	グローバルアリーナ
	午 後	小倉城・漫画ミュージアム見学	
11 (火)	終 日	那珂小学校との交流	グローバルアリーナ
		茶道体験	
		和太鼓グループとの交流	
12 (水)	午 前	トヨタ自動車九州工場見学	グローバルアリーナ
	午 後	カヌー体験	
		浴衣着付・書道・けん玉体験	
13 (木)	午 前	副議長、福岡県企画・地域振興部長表敬	グローバルアリーナ
	午 後	福岡市民防災センター・博多祇園山笠 見学、新幹線乗車体験	
14 (金)	午 前	八女伝工芸館（手すき和紙づくり体験）	ホームステイ
	午 後	福岡県青少年科学館見学	
		ホストファミリーとの対面式	
15 (土)	終 日	ホストファミリーとの交流	ホームステイ
16 (日)	終 日	ホストファミリーとの交流	ホームステイ
17 (月・祝)	午 後	送別会	グローバルアリーナ
		引率者会議	
18 (火)	終日	出 国	

プログラム内容

平成29年7月7日（金）～18日（火）

第1日目	7日 (金)	<p>◎入国</p> <p>8カ国（ブラジル・ボリビア・パラグアイ・コロンビア・メキシコ・ペルー・アメリカ・カナダ）から子弟20名、引率者10名が来福しました！</p>
第2日目	8日 (土)	<p>◎午前：オリエンテーション、福島専務理事との対面式</p> <p>オリエンテーションでは、主催の福岡県国際交流センター渡辺事務局長からの歓迎挨拶、スタッフ紹介の後、プログラムの趣旨や参加の心得、スケジュールの説明に加えて、参加者が自己紹介をしました。その後、福島専務理事から記念品が贈呈され、併せて記念撮影が行われました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>渡辺事務局長挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>自己紹介</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>福島専務理事と参加者</p> </div> </div>
		<p>◎昼：歓迎会</p> <p>グローバルアリーナ内レストラン「GA倶楽部」にて、歓迎会を行いました。福岡県海外移住家族会の方々など総勢53名が出席しました。子弟・引率の自己紹介の後、それぞれのテーブルで、福岡県海外移住家族会の方々と交流しました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p>◎午後：那珂小学校交流の準備</p> <p>7月11日（火）に訪問する那珂小学校での発表の準備をしました。参加者は、母国から持ち寄った写真や資料を使って、一生懸命作成に取り組んでいました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>ブラジル福岡県人会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>ハワイ福岡県人会 ハワイ島福岡県人会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>パラグアイ福岡県人会</p> </div> </div> <p>◎夕方：宗像大社見学</p> <p>宗像市が依頼した英語ガイドボランティアに、宗像大社内を案内してもらいました。見学した日の夜には、宗像大社が世界遺産に決定するかもしれないということで、参加者もとても興奮していました。（当日夜、世界遺産群に決定）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>

◎終日：宗像市小学生との交流デイキャンプ

宗像市内に住む国際交流に興味のある小学生19名と、グローバルアリーナでデイキャンプを行いました。県人会の子弟と宗像市の小学生がグループとなり、竹鉄砲やそうめん流し、おにぎりを作ったりしながら交流しました。午後は福岡教育大学の学生たちが企画したゲームで、参加者たちは言葉の壁を越えて交流をすることができました。



竹鉄砲作り



竹鉄砲遊び



そうめん流し



おにぎり作り



福岡教育大学学生によるゲーム



◎夕方：那珂小学校交流での出し物のリハーサル

引率者からの提案で行った母国紹介のリハーサルでは、参加者がお互いの国を知る、いい機会となりました。

第3日目

9日
(日)



ブラジル福岡県人会



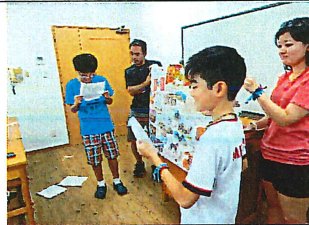
在ボリビア県人会



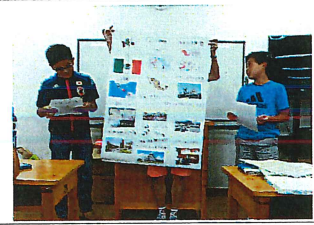
パラグアイ福岡県人会



コロンビア福岡県人会



ペルー福岡クラブ



メキシコ福岡県人会



南加福岡県人会



ハワイ福岡県人会
ハワイ島福岡県人会



シアトル・タコマ
福岡県人会



バンクーバー福岡県人会

<p>第4日目</p>	<p>10日 (月)</p>	<p>◎午前：いのちのたび博物館見学</p> <p>北九州地区家族会のご協力のもと、グループごとに自由に館内を見学しました。実際に恐竜の化石や展示を見るのが初めての参加者もあり、興味津々でした。</p>  <p>◎午後：小倉城見学、北九州漫画ミュージアム</p> <p>小倉城では、日本の歴史や、昔の暮らしなどについて見学した後、天守閣の最上階では、記念コインメダルの作成に列を作っていました。漫画ミュージアムでは、説明に少し疲れた様子もあったが、マンガを読みながらリラックスする子弟もいました。</p>  <p>小倉城</p> <p>北九州漫画ミュージアム</p>
<p>第5日目</p>	<p>11日 (火)</p>	<p>◎終日：那珂小学校との交流</p> <p>体育館でお迎えの式をしてもらった後、ペルー県人会がチャランゴ演奏を披露しました。各教室では、ふくわらいや給食を食べながら交流した後、各県人会で準備してきた出し物の発表をしました。学校交流の後は、茶道体験、竹下太鼓グループとの交流を行いました。</p>  <p>歓迎会</p> <p>給食の準備風景</p> <p>各県人会からの発表</p> <p>茶道体験</p> <p>フラダンス</p> <p>竹下太鼓</p>

<p>第6日目</p> <p>12日 (水)</p>	<p>◎午前：トヨタ自動車工場九州工場見学</p> <p>ショールームでは、高級車に乗って写真を撮った後、工場で組み立てる様子を見学しました。工場内では、県費留学生の合戸さん（英語）、福山さん（ポルトガル語）、徳永さん（スペイン語）が通訳を引き受けてくれました。</p> 
	<p>◎午後：カヌー体験</p> <p>幸運にも快晴に恵まれ、プログラム半ばの疲れも克服し、子弟、引率者、県費留学生が皆大変興奮して参加しました。カヌー体験後、海水浴もすることで、参加者はとても充実した時間を過ごした様子でした。</p>  <p>◎夕方：浴衣着付け体験</p> <p>宗像市内の小学生がお手本となり、浴衣着付け及び日本文化体験を行いました。参加者はグループに分かれ、浴衣着付けの他に、習字や折り紙、けん玉などを体験してもらい、習字では自分の名前を書いてみたり、けん玉に必死になる子弟の様子も見られました。</p> 
<p>第7日目</p> <p>13日 (木)</p>	<p>◎午前：副議長表敬・議場見学、福岡県企画・地域振興部長表敬</p> <p>表敬では、皆、緊張した様子で参加し、それぞれが、日本語での自己紹介を一生懸命練習した成果を披露していました。議場見学では、議会の説明を聞いた後、議長席で記念撮影をさせてもらうことができ、子弟はわれ先にと代わる代わる、議長席に座らせていただきました。</p> 
	<p>◎午後：福岡市民防災センター</p> <p>地震体験や消火体験、強風体験をしました。実際に地震を経験した事のない子弟や引率者もあり、新鮮な体験となったようでした。全員が実際に消火器を使って消火をするという消火体験をし、消火の難しさと冷静に行動するということを学んでいました。</p> 

第7日目	13日 (木)	<p>◎夕方：博多祇園山笠見学、新幹線乗車体験</p> <p>人ごみの中、山笠集団山見せを見学後、帰路の一部で新幹線乗車を体験しました。参加者は新幹線の姿に興奮した者の、あっという間に到着し、拍子抜けした様子でした。</p> 
第8日目	14日 (金)	<p>◎午前：八女伝統工芸館（手すき和紙うちわ作り体験）</p> <p>伝統工芸の見学では、金箔の大きな仏壇に驚き、竹細工職人が作った紙鉄砲で何度も遊んでいました。手すき和紙作り体験では、紙すきに苦戦したものの、押し花を散りばめて世界に一つしかないうちわを作って感動していました。</p>  <p>◎午後：福岡県青少年科学館</p> <p>見て触って体験する館内では、子弟はとても興奮し、元気にチャレンジしていました。</p>  <p>◎夕方：ホストファミリー対面</p> 
第9日目	15日 (土)	◎終日：ホストファミリーとの交流
第10日目	16日 (日)	◎終日：ホストファミリーとの交流

<p>第11日目</p>	<p>17日 (月・祝)</p>	<p>◎昼：送別会</p> <p>ホストファミリー38名、家族会会員6名を含む総勢82名が参加し、送別会を行いました。ホストファミリーとの最後の時間を楽しみました。</p> 
		<p>◎午後：引率者会議</p> <p>引率者及び留学生より、今年の子弟招へいプログラムに対する感想や意見などについて協議しました。</p> 
<p>第12日目</p>	<p>18日 (火)</p>	<p>◎帰国</p> <p>12日間のプログラムを終えて、全員無事に帰国しました。</p> 

参加者等の感想

●子どもたちからの感想

- ・おじいちゃんとおばあちゃんがいつも話す、日本のことがよくわかりました。
- ・日本語を勉強して、今度は、県費留学生やリーダーとしても来たいと思います。
- ・みなさんにやさしくしてもらって、感謝の気持ちをいつまでも忘れないようにしたいと思います。
- ・いろいろな国から来ている参加者と友達になれたことは、一生の思い出になると思います。
- ・小学校の子どもたちとの交流で、自分の国について話した時に、みんなが興味深く聞いてくれたことがとてもうれしかった。
- ・なぜ、おじいちゃんの家にいるとき、違う町にいるような感じがするのか、わかったような気がします。
- ・私たち人間は言葉がちゃんとわからなくても、一緒に遊ぶことも行動することもできます。
- ・日系人の意味が分かるようになり、とてもうれしく思っています。
- ・日本と自分の国の違いが分かって、日本語の大切さ、そして日本の文化にも、とても興味をもつようになりました。
- ・日本の文化や、他の国の文化にも触れることができ、新しい友達もいっぱい作ることができました。
- ・私たちは、国はバラバラでも、私たちは同じ11歳で、みんな日系人で、福岡とつながりがあって、他にも色々な共通点があることを知りました。
- ・文化を体験することは、とても素晴らしく、自分の祖先がどんなところから来たのかを知ることで、感謝の気持ちが湧きました。
- ・私は、福岡出身だということを誇りに思います。
- ・複数の言語を学びたいと思いました。

●保護者からの感想（帰国した子どもの様子から）

- ・子どもは、お金の使い方を覚えて、自分の荷物に責任感を持つようになって、帰ってきました。
- ・日本の文化を理解し、いろいろな場所への見学、様々な出会いに感謝の気持ちでいっぱいに戻ってきました。
- ・初めての両親を離れての旅行、随分と成長して帰ってきたと思います。
- ・日本という国の見方も変わり、日系人であることを誇りに持っているように思えます。
- ・全く親がない世界で、自分に自信ができたようです。帰国後、自分から進んでいろんなことに責任を持って行動しています。
- ・福岡にまた戻るために、日本語や日本の事を学ぶことに目覚めたようです。
- ・日本の事や、日本語の勉強にとっても興味をもって来て、うれしいです。
- ・このプログラムで、福岡の習慣や観光スポットを知るだけではなく、子どもたちが責任を持つこと、時間を守ること、他の国の文化や、習慣を守ることも学ぶことができると思います。
- ・自分の家族に新しい感謝の気持ちが芽生えたようです。
- ・この事業に参加したことで、自身が日本人のルーツを持っていることに対する興味と誇りが生まれ、それは、生涯にわたって続いていくものになると信じています。
- ・この経験が、これからの娘の成長、人との接し方、そして考え方に大きく影響すると思います。

参加者等の感想

●引率者からの感想

- ・私の祖先のルーツ、歴史、文化や教育について、学ぶ事ができました。
- ・今回参加した子どもたちとともに、この福岡県人会をこれからも大いに盛り上げていくつもりです。
- ・このプログラムに参加して、祖父母や両親が今まで教えてくれた習慣を、子どもたちに受け継いでいかなければならないと心から思いました。
- ・以前は、私は二つの文化に挟まれて悩んでいましたが、現在は故郷を見つけたように、一つの文化になった気がします。
- ・日本文化を教えてくださいと、青年や小学生たちと交流をして、遊びながら学ぶというのは、とても良いシステムだと思いました。
- ・日系の子どもたちが、文化や習慣、言葉などが違っても何か共通点が見つかり、友達になっていくことにとても感動しました。
- ・子ども、大人などという年齢や国境を越えて、言葉の壁もなく、一生懸命お互いの生まれた国のことを学びながら、皆で一緒に楽しい時間を過ごしました。
- ・福岡との絆を強めるには、人と人との交流を深めるのが一番大切なことだと思いました。
- ・このプログラムに参加できた子どもたちのエネルギーと好奇心を見て、私は、これからも福岡県人会の活動に参加し、将来も県人会が明るく、熱意にあふれる会であるようにがんばっていきます。
- ・知らない国へ行くという勇氣、新しい文化に触れたこと、長く続く友情を育んだこの12日間を、子どもたちは幾度となく思い出すでしょう。
- ・この滞在で得た最も重要なことは、自分の出自とその出身地に誇りを持つということです。
- ・海外福岡県人会から派遣された幼い子弟たちも、この事業を通して、自分の家族の歴史や文化を再確認し、これからも福岡県との繋がりを大切にしていってほしいと願います。

●福岡教育大学の学生からの感想

- ・日系人の子どもたちは、育った環境が日本でなくても、率先して日本語を使おうとする前向きな姿を見ることができました。
- ・子どもたちから教わることのほうが多かったです。これからますます国際交流の経験が期待される時代に、自らが世界を相手に何ができるか、そしてその中で何を学ぶことができるのか、これらを探しながら大学生活を送りたいです。
- ・アメリカの小学校での教師アシスタントへ向けて、少しでも多くの外国人と交流をしておきたいと考えていたので、この外国の子どもたちと話す機会は、私にとって絶好の機会でした。
- ・私は、教員を目指していますが、教員になることを不安に感じることもありました。今回参加した事で、改めて子どもと関わったり、子ども目線で遊びなどを考え、運営したりする楽しさを感じました。
- ・言葉が通じなくても一生懸命理解しようとして、仲良くなっていくのを見て、すごいなと思いました。
- ・日本の小学生と海外の小学生、また各国の引率者が、一緒になって笑顔で楽しんでいる姿を見ると、充実さを感じることができました。
- ・今回、この企画に参加し、自分自身の視野を広げることができた。まだまだいろいろなことに興味関心を向け、新たなことに挑戦していきたいです。

事業の総評

今年度は、8カ国11県人会から30名が参加した。期間中、宗像市の小学生との交流では、竹鉄砲やそうめん流しなど、同年代との交流を行い、福岡教育大学の学生が企画した交流ゲームでは、参加者が言葉の壁を越えて、元気に楽しく交流している様子であった。また、那珂小学校では、低学年の生徒たちによる心温まる歓迎を受け、中高学年のクラスでは、日本の昔遊びや、各国の文化紹介、簡単な英語を使った交流を楽しんだ。

今回のプログラムでは、過去のグローバルステージ派遣事業参加者である日本の青年たちが、初めて本プログラムのアシスタントとして交流活動に参加し、子弟のお世話や、派遣先国で交流した引率者と再会し旧交を深めるとともに、新たな交流の始まりとなった。

3泊4日のホームステイでは、初めて会うもしくは久しぶりに会う親戚宅や知人宅で過ごし、それぞれルーツを学んだり、再認識したりするなど、福岡とのつながりを強く感じる時間を過ごしていた。

引率者会議では、プログラムのスケジュールがきついで、もう少し余裕がほしい、また、説明を聞くだけの視察ではなく、体験型の視察を増やしてほしい、小学校との交流を増やしてほしいなどの意見が出された。

なお、参加者たちの日本語能力にかなりの差があり、日本語を理解できない参加者は、日本語ができる子弟や引率者からのサポートなしでは交流ができない場面が多く見られた。そのため、日本語ができる参加者に大きな負担がかかってしまうため、今後、事前学習も含め、各県人会において、日本語教育にさらに取り組んでもらうことが大切だと思われる。

本プログラムは、各県人会から本県に1年間留学している福岡県移住者子弟留学生（県費留学生）にも毎年協力してもらっているが、彼らにとっても、日本の文化や習慣をさらに知る上で、大変有意義なものとなっている。そして、子弟たちのお兄さん、お姉さんとして、滞在期間中、身の回りの世話や言葉のサポートをすることで、子弟たちの大きな支えとなっている。今年は、6カ国6県人会から8名の県費留学生が来福している。子弟たちにとっても、県費留学生たちと触れ合えたことは、貴重な体験となっており、これをきっかけに日本語をもっと勉強して、将来、県費留学生として再び福岡県に来てみたいという夢を持って帰国した子どもたちも数多くいた。

さらに、平成20年度の第1回目の本プログラムに参加した子弟の一人が、福岡県移住者子弟留学生として県内の学校で学ぶという成果を得ることができた。今後もこのような成果を上げることが重要である。また、参加者たちが本県に対する関心や愛着を深め、県人会の次世代の担い手として活躍できるように、各県人会と連携しながらフォローアップに努めてまいりたい。

参加者レポート 子弟

Aグループ



ブラジル福岡県人会

藤井 堤 ライス 恵美
Fujii Tsutsumi Lais Emi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

両親と離れて日本へ行く経験を本当に楽しみました。日本といろいろな国の子どもたちと一緒に生活できました。カヌーに乗れたり、観光地のスタンプを探したり、流しそうめんを食べたり、竹のおもちゃを作ったり、お城を見学したりして、楽しみました。私は小倉城と海の中道海浜公園の見学が好きでした。コインを買って自分の名前を書きました。私は、もんじゃ焼き、そうめん流し、太鼓、一輪車に乗ること、幼稚園の子どもたちと一緒に遊ぶこと、けん玉で遊ぶこと、折り紙、新幹線に乗ること、そして、博物館見学が好きでした。私は本当にホームステイを楽しみました。

～親御さんからのメッセージ～

家族全員にとって素晴らしい経験でした。初めて娘が一人旅をしました。娘が自分の持ち物とお金の使い方のことで、心配していました。驚いたことに、期待を超えて、娘はお金の使い方を覚えて、荷物に責任を持つようになって、帰ってきました。今、娘はまた日本へ行きたいと思っています。娘がプログラムに参加できて、福岡県のことを覚えてきたことを感謝申し上げます。ありがとうございました。

Aグループ



ブラジル福岡県人会

鹿毛 丸林 龍三 エリキ
Kage Marubayashi Ryuzo Erick

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本（福岡）に行ったことは、大変良い体験でした。宗像大社、いのちのたび博物館、小倉のお城、マンガ博物館、トヨタ自動車工場の見学、防災センター、八女伝統工芸館は大変楽しかったです。カヌーの体験も大変楽しかったです。それから竹鉄砲での遊び、流しそうめんなど、とても楽しかったです。那珂小学校での折り紙や、竹下太鼓での体験、そして僕が日本人だなと感じたことは、浴衣を着たり、お風呂に入ったりしたことでした。街に出て驚いたことは、歩道を渡るときに信号で音楽がなる事です。ブラジルにはありません。新幹線にも乗ることができて、僕のもう一つの夢もかないました。ホームステイでは、おばあちゃんの家にはもっといたかったです。おばあちゃんは、九州国立博物館、太宰府やショッピングセンターに連れて行ってくれて、カレードーナツも食べることができました。木細工も体験しました。一番楽しかったのは、カニ取りをしたことです。もう一度早く両親を連れて行き、僕の見たいものを見せたいと思います。

～親御さんからのメッセージ～

エリキ龍三は、夢や冒険心の旺盛な子どもです。少し大人になって帰ってきました。日本の文化、博物館、神社、食べものなどに、大変興味をもって帰ってきました。帰国後、エリキは毎日楽しそうに、たくさんの外国の子どもたち、文化の異なる国の子どもたちとの交流などを話しています。食べものもブラジルにはない、ソフトクリームの話もしています。おじいちゃんの生まれた土地に行ったことなど、これからは、おじいちゃんとの会話の時にも、少しは話がわかるのではと思います。福岡県に行く夢がかなえられたことは、このプログラムのおかげだと思います。子どもたちの一生のよい思い出に残る体験をさせていただきありがとうございました。これからは日本語の勉強もしっかりさせたいと思います。

最後になりましたが、県庁、福岡県国際交流センター、そして多くの関係者、職員の皆さま、ありがとうございました。

Aグループ



ブラジル福岡県人会

山里 池田 賢造
Yamazato Ikeda Kenzo

「プログラムで得たこと・学んだこと」

ぼくは、いろいろなことを学びました。食べ物はとてもおいしかったです。研修プログラムがとても楽しかったです。おじいちゃんとおばあちゃんがいつも話す日本のことが本当にわかりました。とても嬉しいです。ぼくが驚いたのは街がとてもきれいでゴミひとつなくて清潔であることでした。
みなさん、どうもありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

賢造は喜んで帰ってきました。日本文化をもっと理解し、いろいろな場所への見学、様々な出会いに感謝の気持ちでいっぱい戻ってきました。博物館、ホームステイ、トヨタ工場見学、小倉カステラ、小学校訪問、消防署見学、おいしい料理との出会い、このすべてが楽しかったと言っています。これからも日本語の勉強にいつそう励み、将来は留学できるように頑張りたいと張り切っています。主催者関係の方一人一人に心から深く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

Aグループ



ブラジル福岡県人会

鹿毛 丸林 カオリ ロレナ
Lorena Kaori Marubayashi Kague

「プログラムで得たこと・学んだこと」

福岡を知ったことは、大変楽しかったです。北九州市のいのちのたび博物館や福岡市の防災センターで自然災害について学んだこと、またカヌー体験も楽しかった。子どもたちが、いろいろな遊び、折り紙、太鼓、お茶などを学んでいたことは、大変興味深く思いました。日本の文化、着物着付体験、行儀作法、習字、お風呂など、ブラジルでは、あまり体験しませんので、大変楽しかったです。流しそうめんや水鉄砲での遊びも楽しかったです。学校の給食も大変おいしかったです。ホームステイは、おばあちゃんの家で先祖のお墓参りに行きました。私のおじいちゃんが子どもの頃、水遊びをしていた川ではカニ取りもしました。乗り物、特に自動車、タクシーの運転手さんが反対側（右側）におり、驚きました。運転手さんがみんな白い手袋をしていたことも、新幹線も大変珍しかったです。
日本語を勉強して、今度は留学生やリーダーとしてもいきたいと思います。

～親御さんからのメッセージ～

ロレナは大変喜んで帰国しました。毎日いろいろな話を話します。以前には、ただ観光客として行きたいとは言っていましたが、今度の体験で日本語をもっと覚えて留学したいと言っています。日本に行く前には日本の習慣なども動画などでは見てはいましたが、自分の目で日本を見て驚いているようです。この度の研修では、両親と離れての旅行、ずいぶんと成長して帰ってきたと思います。最後になりましたが、県庁、国際交流センター、那珂小学校、そしてお世話頂いた皆様、ホストファミリー、家族の皆さまありがとうございました。

Bグループ



在ボリビア福岡県人会

林 健治
Hayashi Kenji

「プログラムで得たこと・学んだこと」

僕の住んでいるボリビアでは、海がありません。そしていろいろな事で日本に遅れています。今回、福岡に来て、日本の素晴らしいことを目で見て、体験することができて、とてもよかったと思います。どこに行ってもきれいで、ゴミなどがなかったこともすごいと思いました。八女の工房で、貼り絵をしたり、カヌーに乗ったりするなど初めてのことばかりでした。ホームステイ先の小林さんには、動物園に連れて行ってもらったり、ジェットコースターに乗せてもらったり、とてもお世話になりました。

今回、福岡に行行って学んだことは、たくさんありますが、みなさんにやさしくしてもらったことです。感謝の気持ちをいつまでも忘れないようにしたいと思います。ありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

この事業に参加する前の息子は、どのように説明しても、日本という国がとなりの町にいくくらいの事しか頭になかったようです。しかし、今回の旅行で、日本という国の遠さを実感したみたいです。また、今回初めて親から離れて生活したことからだと思いますが、多少自立したように思えます。なぜならば、だれにも何も言われなくても、宿題をしたり、夜8時ぐらいになると歯を磨いて眠りについたり、少し成長した息子を見ている今日この頃です。もちろん、日本という国の見方も変わり、日系人であることを誇りにもっているように見えます。

Bグループ



在ボリビア福岡県人会

米倉 真生
Yonekura Mai

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この事業に参加して学んだ事は、同じ福岡県にルーツがある人がいろんな国にいること、福岡は大きくきれいな街であること、そしてプログラムにお手伝いしてくれたみんながとってもやさしかったことです。プログラムも時間通りに守られていました。いろんな場所を見学したり体験したりして、日本はすごいと思いました。福岡のえらい人たちが、私たちをやさしく迎えてくれてとっても嬉しかったです。地震の体験では、今まで経験したことのない地震の動きを感じることが出来ました。このような動きで、日本の人たちは、地震があるときはびっくりしているのだと思いました。小学校では、日本の小学生とお話や遊んだりできて楽しかったです。給食のカレーがおいしかったです。小学校では子供たちがみんなに食事を用意して、あと片づけしたりしてすごいと思いました。

短い時間の福岡での体験は、長い旅で少し疲れましたが、本当に行行ってよかったと思っています。福岡の皆さん本当にありがとうございました。これから、もっと日本語を勉強してもう一度福岡に行けるよう頑張ります。

～親御さんからのメッセージ～

帰ってきたらすぐ、“ママ今日から毎日一人で部屋に寝られるよ！”と言いました。さすがに数日間、全く親がいない世界で自分に自信が出たことがとっても明らかでした。帰国後、自分から進んでいろんなことに責任を持って行動しています。また、語学に一生懸命です。まだまだ足りない日本語の勉強、そして英語が出来ないことにも気付き、もっと勉強したいと言うようになりました。それから、家族の毎日の会話に日本のお話がでて毎日盛り上がっています。食べ物をはじめ、日本の学校での出来事、新幹線に乗ったこと、いろんな場所に行行って見たり体験したりしたこと、会ったことのない親戚に出会い、いとこたちにも会えたことなどを嬉しそうに話してくれます。また、NHK番組を見ていると、あそこにも行ったとか教えてくれます。これからも日本語をもっと勉強して、また日本に行きたいと希望をもって過ごしています。

Bグループ



コロンビア福岡県人会

宮田 ジョセフィン 直子
Miyata Josephine Naoko

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私はこのプログラムに参加でき、貴重な経験をする事ができて、とても感謝しています。私の先祖のことや、日本文化にふれることができ、日本文化のすばらしさと歴史を学びました。日本のことをもっと知りたいと思いました。日本が好きになりました。いろいろな国から来ている参加者と友達になれたこと、みんなと楽しく過ごせたホームステイは、私の一生の思い出になると思います。那珂小学校を訪問できたことで、日本の学校のすばらしさが、わかりました。生徒たちといろいろ話せたことは、とてもいい勉強になりました。友達もできて、連絡を取り合っています。ホームステイの家族もとても親切で日本のおいしい食べ物を食べに連れて行ってくれました。このプログラムはとてもすばらしいと思います。日本を知るととてもいい機会だと思います。また機会があれば、日本へぜひ行きたいです。

～親御さんからのメッセージ～

日本に行く前は、あまり日本のことに興味を示しませんでした。日本から帰ってきて、すごく日本文化に興味を持つようになりました。毎日、日本で学んだことや習慣をこちらでもやっています。

日本で覚えた日本語も毎日繰り返しています。日本でできた友達と連絡を取り合っています。また、いつか日本で会おうと話しているみたいです。

日本に行く機会をいただいて感謝しております。福岡県国際交流センターの皆さま、いろいろありがとうございました。

Cグループ



メキシコ福岡県人会

飯田 ガルシア アンヘル 慈
Iida Garcia Angel Yoshi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

初めて両親と離れて外国へ行き、どんな小さなことでも、僕には面白かったです。日本では運転手さんが右側に座ることに初めて気づきました。神社では、階段を上る下がる順番が決まっています、理由までがある事にも興味深かったです。小学校の交流では、メキシコの話にみんなが興味があるのかが不安でしたが、皆さんが興味深かったように見えました。恐竜ミュージアムでは、恐竜がとてもリアルに見えました。叔父さんの実家のビジットが一番ずっと忘れられない事だと思います。お爺ちゃんと一緒にいるようでしたからです。ここで分かったのは、お爺ちゃんの持っている色々な習慣は日本にもある事でした。今はなぜお爺ちゃんのお家にいる時、違う町にいるような感じがするのが、分かったような気がします。この事を経験するチャンスがあってとても嬉しいです。ずっと親切にしてくれてたことも本当に感謝しています。

～親御さんからのメッセージ～

確かに慈が成長したと思います。一人で旅行をしたことは自信をつけさせ、ある程度独立してきたと思います。以前よりもっと手伝ってくれています。彼はとても喜んでいて是非とも県費留学生として行きたいと話しています。また、日本人は完璧主義で細かいところまで考えるので、将来車を買うのであれば、日本メーカーの車を買いたいと話しています。一番大事なのは、福岡へ戻ることによって彼が目覚めたことだと思います。今では日本語教室へ行くために早く起きて、その後お爺ちゃんから書道も習っています。更にお父さんから辞書を貰い、一人でひらがなを勉強しています。彼は日本に興味や愛情も生まれてきたと思います。

Cグループ



メキシコ福岡県人会

イシイ イノウエ ハヤト
Ishii Ynoue Hayato

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本で、私のルーツが分かることができ、とてもうれしく思っています。私の祖父母の実家を見ることができて、よかったです。

福岡県那珂小学校は、メキシコの小学校と違って、子供はクラスで給食を食べます。みんなで給食の準備とその片付けもみんなです。とても大切だと思います。私にとって、一番印象に残ったことは、私たち人間は言葉がちゃんと分からなくても、一緒に遊ぶことも行動することもできます。実は私は日系四世ですが、日系人という意味が分かりませんでした。このような経験で日系人の意味が分かるようになり、とてもうれしく思っています。日系人のアイデンティティーが少し分かるようになりました。しかも、アメリカとコロンビアとペルーなどの子供日系人と知り合って、友達になって、とても嬉しく思っています。これから、日本語も日本の文化ももっとも勉強して行きたいと思っています。心から感謝しています。

～親御さんからのメッセージ～

はじめて家族から離れて旅行をすることができて、たくさん思い出もできました。勇人は家で洗濯などしたことはないのに、日本で、自分の洗濯ができて、とても良かったとおります。

それから、勇人君はグローバル・アリーナでお風呂に良く入ったそうです。勇人君はお風呂好きになって、私は良かったと思います。

確かに一番変化したことは日本語に対してと言うことだと思っています。勇人君はこれから、日本語の勉強も日本のことも、最も興味があって、私たち親としてはとても嬉しく思っています。この十日間で、福岡で知り合った子供たちにまた会いに行きたいと言って、いろいろな国で友達がいると言うことがとても素晴らしいと思います。

Cグループ



パラグアイ福岡県人会

渕脇 大喜
Fuchiwaki Daiki

「プログラムで得たこと・学んだこと」

ぼくは初めて日本に行って、日本のすばらしさにびっくりしました。神社でたくさんの神を見てびっくり、お風呂がプールみたいに大きいのもびっくりしました。初めてのカーニバル体験、地震のおそろしさの体験なども、とてもおもしろかったです。これからは、もっと日本語を学んで、将来にはまた行きたいです。

～親御さんからのメッセージ～

この度は大喜がお世話になりまして、ありがとうございます。日本とパラグアイの違いが分かって、日本語の大切さ、そして日本の文化に興味を持つようになりました。本当にありがとうございます。

Dグループ



ペルー福岡クラブ

イノウエ フジモリ フランコ
Ynoue Fujimori Franco

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本は初めてでした。日本の文化や習慣に触れ、宗像大社や茶道や和太鼓の演奏を見て、日本の整頓、しつけが日本の文化の基本になっていることがわかりました。那珂小学校でペルーを紹介することができてうれしかったです。那珂小学校と交流ができて、優しくしてもらって本当に楽しかったです。

他の国の同じ福岡県の友達ができ、一緒に遊んだり食べたり、それぞれの国のことを話したりすることができました。会ったことがない親戚の家でホームステイができて、大変いい経験になりました。お爺ちゃんのいとこや姪っ子たちと会うことができました。

～親御さんからのメッセージ～

福岡がすごく気に入りました。性格的に成長したように見えます。自分のことは自分ですようになりました。フランコがこのプログラムに参加することができて、本当に感謝しています。

Dグループ



ペルー福岡クラブ

ミヤカワ ツハ ホセ イグナシオ
Miyakawa Tsuja Jose Ignacio

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムのおかげで日本文化やほかの国の文化にも触れることができて、新しい友達もいっぱい作ることができました。日本では自然と共に暮らしています。竹を使ってそうめんを流し、つゆといっしょに食べたことが面白いと思いました。日本の若者の服装も気になりました。アニメやまんがの主人公のように服を着て、コンタクトレンズで目の色を変えたりして、驚きました。

那珂小学校で給食のときに生徒が食べ物を配ったり、食べる前に感謝し、食べたあとに、ちゃんと片づけたりすることを見て、日本の習慣や文化の整理や整頓それにしつけに関心を持ちました。

他の国の友達とお話して、みんな暮らしている国のイメージが間違っていることに気づきました。例えば、ハワイの友達と話していたら、僕の中でハワイでの暮らしは海沿いに家があって、みんなハワイアンダンスの伝統的な服装をいつも着ている印象でした。ハワイの友達のペルーのイメージは、ペルーのクスコにあるマチュピチュのようところで暮らしていて、いつもリヤマに乗っているイメージだったようです。本当は二人とも福岡のような町に暮らしていることが分かって、面白かったです。

このプログラムに参加することができて、福岡国際センターやペルー福岡クラブのみなさんに感謝しています。どうもありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

ナチョはこのプログラムに参加することができて、感謝しています。

ナチョはプログラムを経て、自分のことが自分ですようになりました。家の手伝いも文句言わずにするようになりました。このプログラムで福岡の習慣や観光スポットを知るだけでなく子供たちに責任を持つこと、時間を守ること、他の国の文化や習慣を守ることも学ぶことができると思います。子供たちにとって、勉強になるとてもいい経験です。

Eグループ



シアトル・タコマ
福岡県人会

マック 芝江奈 山下
Mack Sienna Yamashita

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私は、このプログラムに参加することができて、世界中からのお友達を作ることができました。国は、バラバラでも私達は同じ11才で、みんな日系人で、福岡とつながりがあって、他にも色々な共通点があることを知りました。私たちの母国語は、一緒になくても会話ができることも分かりました。九月からアメリカの中学校でスペイン語を勉強するのが楽しみになりました。みんなと一緒に日本文化を体験するのも楽しかったです。一番楽しかったのは、那珂小学校の皆さんとの交流でした。アメリカでもはやっているけん玉で遊んだり、初めて書道を練習したり、浴衣も着せてもらいました。ホストファミリーの橋山さん一家と過ごした時間も最高でした。私は、前よりずっと福岡が好きになりました。福岡には、また行きたいと思います。皆様、どうもありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

娘が大変お世話になり、感謝申し上げます。今まであまり日本語を話す機会がなかった娘は、福岡から帰って来てから日本語を今までより自信を持って話す様になりました。米国在住の一世のおじいちゃん、おばあちゃんにも自ら日本語で話しかけることも多くなりました。言葉だけでなく、日本に対する関心、また、日系人としての意識も芽生えてきた様です。娘に貴重な経験をさせて頂きありがとうございます。今後も一人でも多くの子がシアトル・タコマ福岡県人会を通してこのプログラムに参加できるよう、サポートし続けていきたいと思っております。

Eグループ



バンクーバー
福岡県人会

三木 エミリー メグミ
Miki Emily Megumi

「プログラムで得たこと・学んだこと」

最初わずか十日間という短い間に、何ができ、学ぶことができるのかと思いましたが、福岡にいた間に博物館 や文化的な場所を回って、福岡県の多くの事を知ることができました。そして福岡県にルーツのあるほかの子供たちの事もたくさん知ることができました。那珂小学校に行くと、生徒たちと遊んで、交流ができました。この経験で、日本の学校はどんな所か少しわかってきました。八女伝統工芸館では、うちわをつくり、小倉城で福岡の昔の歴史を学びました。

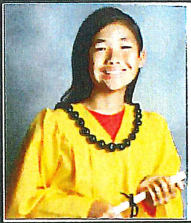
とくに一番好きな事は、新しい食べ物を食べられたことでした。違う国には珍しいたべものがたくさんあります。このプログラムで初めて福岡の有名なたべものをたべられました。そうめん流しが特に好きでした。ホームステイでは 親戚と初めて会え、より深い絆を結べたと思えました。そして、毎日の生活を見る事ができ、とても楽しかったです。このプログラムに参加出来た事で、また将来福岡に行きたいと思っています。

最後に、世界中から 良い友達と、そしていっしょに良い思い出をたくさん作る事が出来ました。今も将来も、まだまだ友達でありたいと思っています。私は、プログラムのおかげで、たくさんのお大切な思い出が作れて、とても感謝しています。ありがとうございました。

～親御さんからのメッセージ～

エミリーは、日本の事について、もっと、わかるようになりました。福岡から戻って来た時とても嬉しそうでした。彼女は短い間の 福岡の面白い場所や、面白い事を話してくれます。彼女は多くの新しいアメリカや南アメリカの友たちについて話します。エミリーは日本語の勉強を続けて、いつか福岡に行きたいそうです。

Fグループ



ハワイ福岡県人会

ホサカ ケイトリン
Hosaka Caitlyn

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムで学んだことは、自分の家の持っているものに感謝をしたことでした。なぜなら、旅行中何をどう使うかわからなかったからです。この旅行中に日本語が少しわかるようになりました。日本の文化と、日本ではどんなことをするかということを学びました。日本の人は神社へ行き、お金をあげ、祈ります。食事の前にいただきます、と言い、食事が終わったらごちそうさまでした、と言うことを学びました。日本の有名なおもちゃ、けん玉のことも知りました。

～親御さんからのメッセージ～

旅行が始まると、ホームシックに悩んだようでした。一人で旅行に行くのは初めてだったので、もっともなことだと思います。しかし、この旅行に行かせてもらえて感謝している様子が伺えました。彼女が上記の感想文で言っている通り、実家の家族に新しい感謝の気持ちが芽生えたようです。日本への旅行を振り返り、私たちにいろんな話をしてくれました。特に食べ物（ラーメン、自動販売機、など）のこと、他の短期滞在の子供達と仲良くなったことなど。新しい友達ができ、連絡を取り合っています。ケイトリンは私たちに喜んで旅行の話をしてくれます。1000枚も写真を撮ってきました！

Fグループ



ハワイ福岡県人会

高沢 ジェット 金
Takazawa Jett Kin

「プログラムで得たこと・学んだこと」

この旅行でたくさんのことを学びました。メキシコやペルーなどからたくさん生徒が来ていたので、スペイン語も少し覚えました。今年、僕は学校で日本語のクラスを取ることにしました。日本に行くことによって日本語を勉強する気になりました。友達がカタカナの表をくれたので、お店や、バスの中や、ポテトチップの袋のカタカナを自分で読むことができるようになりました。特に楽しかったことは、和紙を作ってうちわを作ったことです。文化を体験することはとても素晴らしく、自分の先祖がどんなところから来たのかを知ることで感謝の気持ちが湧きました。ホームステイのお母さんはとても優しく、自分の息子のように僕に接してくれたので感謝しています。家族から離れて一人で旅行するのは初めてでした。この旅行で、家族がいなくても一人で大丈夫だということがわかりました。旅行の最後には友達ととても仲良くなり、別れるのが悲しかったです。一人の男の子は僕にハグして泣きじゃくり、僕はTシャツを着替えなければいけないほどでした。またチャンスがあれば絶対に行きたいと思いました。とても楽しかったです。

～親御さんからのメッセージ～

福岡県人の子孫として福岡の親戚に会えたこと、ホームステイできたことはとても良い経験でした。ジェットが家族と離れて一人で旅行するのは初めてでした。普段は人なつこく、社交的ではありますが、次男なのでリーダーシップを取ることはありません。この研修旅行ではグループのリーダー的存在になり、12日間親と離れ寂しい思いをしていた他の子の世話をしていたと、みんなから聞きました。文化の交流で他の国の文化に興味を持ち、世界をもっと探求したいと思うようになりました。ジェットは次の学年から学校の授業で初めて日本語を選択する予定です。一人で日本に行ったことで、日本語を自分で学ぶこと、できるだけ日本語漬けになることに目覚めました。家に帰ってきてからラベルに書いてあるカタカナを上手に読んで驚かせてくれました。日本に行っていなければ、こんなふうに分で習得することはなかったと思います。ジェットは日本でたくさん経験を積みました。文化と言語に触れただけでなく、この旅行は彼を成長させてくれました。日本へ行く時に、ハワイの文化を伝えることも意図していました。ジェットはウクレレを持って行き、他の生徒やゲストやホームステイ・ファミリーの前で弾きました。ホームステイのファミリーは、ジェットのウクレレに感動してくれ、お友達のところと一緒にいき、子供にウクレレを教えたそうです。福岡の方々がジェットに与えてくれた素晴らしい体験を一生忘れません。

Fグループ



ハワイ福岡県人会

マックマーン メイソン
McMahon Mason

「プログラムで得たこと・学んだこと」

日本文化についてたくさん学びました。お茶の飲み方や片づけ方にいろいろあることは知りませんでした。うちわを作ったのが楽しかったです。筆で名前を書くことは難しかったけれど、とてもおもしろいと思いました。日本でいろいろなところを見学できて楽しかったです。他の国の友達ができ、その国のことも学びました。

～親御さんからのメッセージ～

メイソンは日本文化のすばらしさに目を開くことができたと思います。今まで家では日本語の読み書きを教えていませんでしたが、本人が読んだり書いたりすることに興味を持ちました。これからはこの興味を広げたり、深めたりしたいと思います。国際的な視野を作る素晴らしい機会となりました。ありがとうございました。

Fグループ



ハワイ島
福岡県人会

クック アリエール
Cook Arielle

「プログラムで得たこと・学んだこと」

私は那珂小学校などを訪れて、多くの貴重な体験をしました。那珂小学校では、日本の子供達とどのようにすればコミュニケーションが取れるかを学びました。また、日本の文化も学びました。工芸博物館には人形浄瑠璃の複製がありましたが、そこで、それがどのようにして作られるかを学びました。また、私は神社でのしきたり、つまり神殿に入る前に一礼したり、手水舎で手をあらい、水を含んでから吐き出すような、日本の伝統を学びました。最後になりましたが、他の参加者や、特にホームステイ先の家族など、多くの友人を得ることができました。

～親御さんからのメッセージ～

アリエールは福岡から帰国してから、また日本に行きたい、そして学校で日本語を勉強したいと言っています。カナダ、ボリビア、そしてアメリカからこの事業に参加した学生たちと手紙で交流を続けたいようで、福岡から帰国後、早束手紙を出していました。彼女はハワイからこの事業にこれまで参加した人たちと一緒に集まりたいと言っています。この事業に参加したことで、彼女には自身が日本人のルーツを持っていることに対する興味と誇りが生まれ、それは生涯にわたって続いていくものになると信じています。

Fグループ



南加福岡県人会

遠藤 幸
Endo Miyuki

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムを通じて、私がどのように福岡と関係があるかという一番大切なことを学びました。私のひいおばあちゃんが福岡出身ですが、残念ながら、会ったことがありません。でも、そのひいおばあちゃんのおかげで、世界の福岡県出身の同じ年の人たちに会い、友達になれました。色々な国の人たちと友達になれたことが、とてもよかったです。言葉が通じなくても、「福岡」という共通点があり、すぐに仲良くなりました。私は福岡出身だということを誇りに思います。小学校にも行って、日本の学校の経験もできました。日本の同じ年の人たちにもたくさん会えました。人生で一番楽しい12日間でした。私は将来、県費留学生として福岡にまた行きたいと思います。そのために、勉強やスポーツもがんばり、日本語も今までよりももっとうまくなりたいと思います。

～親御さんからのメッセージ～

日本のルーツに福岡もあるということを知り、直接、福岡の人たちと他国の福岡県の子弟の方々に会い、友達ができたことは、娘にとって大きなプラスになったことは間違いありません。このプログラムを通じて、家族のことや自分のアイデンティティーをより理解できたと思います。この経験がこれからの娘の成長、人との接し方、そして考え方に大きく影響すると思います。

Fグループ



南加福岡県人会

クラーク エリー ケイコ
Clark Ellie Keiko

「プログラムで得たこと・学んだこと」

このプログラムでは、私は多くの友達や教を学びました。やりたいことに時間と努力を費やすと、そのチャンスが高くなることです。私はこの教は将来役に立ち、何をすべきか考えるときに重要です。問題解決のために自分で学び、物事を理解する必要があります。私は福岡で、自分自身で自分のために何がベストであるかを判断しようとしていました。また、いくつかの言語を学ぶことが重要であることを知りました。なぜなら、私は他の国の友達と話すことができたからです。私は、今、複数の言語を話すことを学びたいと思っています。今度は留学の後、私は公文に行き、日本語と数学を習っています。

～親御さんからのメッセージ～

日本に行ったエリーと日本から戻ってきたエリーには、深い違いがあります。彼女は比較的独立していて、日本のプログラムに応募したのは自分の意思でしたが、彼女は、しばし私たちが何かをやるのを待っていました。例として、エリーは、両親に頼って起きていましたが、彼女は2週間で成長して、自分自身でやらなければならないということを学びました。エリーは、2週間にわたって彼女の経験を記録し、彼女は選択をしたり、ホームシックになった人と親しい友達になったという話を聞きました。最近、エリーが試合に挑戦したり、サッカーチームのキャプテンに応募するのはプログラムで自信ができたおかげだと思います。エリーは日本の経験だけではなく、いろいろな国の学生と友達になり、彼らと手紙や電子メールで交換を続けています。

参加者レポート 引率者

Aグループ



ブラジル福岡県人会

南 菜津美 マルガレッチ
Minami Natsumi Margareth

短い間でしたが本当にありがとうございました。

初めから最後まで、私は、このプログラムは子供たちのためだと思っていました。でも、このプログラムで旅行では行けないところとか体験できないことをして、とても楽しかったです。そして、私一人で四人の子供たちをこんな遠くまで連れて行って責任を感じました。一人で四人子供は大変です。子供たちは、私が頼んだことをちゃんと聞いてくれて、本当におりこうで助かりました。そして、グローバルアリーナに夜の22時について、次の日7時45分朝ごはん。私は5時には目が覚めていいけれども、子供たちのことを考えたら、ちょっとかわいそうだと思います。いろいろな所でガイドさんがたくさん説明しても、子供たちはもう疲れて聞いていません。だから、もっと子供たちが色々触れ合うところ、自分で作る事ができたら、もっと思い出になるかと私は思いました。

例えば一番楽しかったことを聞いたら、流しそうめん、おにぎりを作ったこと、カヌーができたこと、いのちのたび博物館でスタンプを押したこと、その博物館で恐竜の生き方を見られた楽しい説明、なか小学校に行って子供たちと遊んだこと、浴衣を着たことです。

時間が短いので疲れはしょうがないこととは思っていますが、もっと時間、予定を上手く賢く考えたら、無駄な時間や焦らなくてもいいことができるでしょう。みんなもプログラムの成功を祈っています。

Bグループ



在ボリビア福岡県人会

大塚 恵
Otsuka Key

このプログラムに引率者として参加する事で、改めて私たち祖先のルーツ、歴史、文化や教育について学ぶ事ができました。県費留学生として訪れた時とは違った物の見方や感じ方があり、もう一度こうして訪れることができた事に、とても感激を覚えました。今回は、学生2名を引率させていただき、大事な子どもさんたちをお預かりするという責任は重く、不安な気持ちもありましたが、プログラムが進むにつれ、他の国の子どもたちと仲良くなり、はしゃぐ姿やちょっとした成長を見るたびに、うれしく思えました。また、この短い期間の中で、子どもたちになるべく多くを知ってもらいたいというセンターの方々や、家族会の方々の想いがとても伝わってきました。大勢の子どもと引率者を率い、健康面や安全面など気を配ることがたくさんあったことと思います。みなさんのおかげで、とても充実した日々を満喫することができました。県人会としては、まだまだ見直す点がたくさんあると感じ、この経験をもとに改善、サポートしていけたらと思います。子弟招へいを受けた子どもたちとともに、この福岡県人会をこれからも大いに盛り上げていくつもりです。

Bグループ



コロンビア福岡県人会

宮田 カロリーナ
Miyata Carolina

この素晴らしいプログラムに参加できて、心より感謝しております。

私は、このプログラムに参加してたくさんのことを学びました。その一つに、祖父母がどこから来たか、祖先のルーツを学びました。子どもたちが祖先のルーツを学ぶ事によって、日本のいろいろなことに興味を持ち、日本に対して、もっともっと知りたいと思うのではないのでしょうか。私はこのプログラムに参加して、祖父母や両親が今まで教えてくれた習慣を子どもたちに受け継いでいかなければならないと心から思いました。

例えば、礼儀正しくする。きちんと整理する。他の人と協力する。自分の行動に責任を持つなどです。このプログラムが、いつまでも続きますように心より願っています。このプログラムをお手伝いしてくださった皆さま、そして福岡県国際交流センターの皆さま、本当にありがとうございます。

Cグループ



メキシコ福岡県人会

林田 クラウディオ としろう
Hayashida Gyotoku Claudio Toshiro

このプログラムのおかげで数倍自信が付きました。

以前、私は二つの文化に挟まれて悩んでいましたが、現在は故郷を見つけたように、一つの文化になった気がします。自然は大好きです。今は更に自然を尊敬し、環境も大事にしたいです。新しい友達もできて、新しいプロジェクトも生まれてきました。各国、主に日本の子供と出会い、とてもいい経験でした。子供みたいに色々面白いことがありました。自由、幸せ、1分1分楽しんでいました。お風呂の事、和食の事、どの場所でも、どの人たちも、とても良かったと思います。

この経験から日本語をもっと理解できるようになりました。文化、伝統、そして神社やお城のような特別な場所を通じて、語彙と表現の意味が私に明らかになって、分かりやすくなりました。

今後、更に日本語を覚え、将来に改めて日本へ行くモチベーションが高くなり、頑張っていきたいと思います。

Cグループ



パラグアイ福岡県人会

熊谷 清美
Kumagai Kiyomi

このプログラムに参加させて頂き、初めての体験でとても良い思い出を作ることができ、とてもうれしいです。

学んだ事は沢山あり、一番心に残ったことは、家族会の皆様の親切な温かいお迎えと、宗像市役所の皆様が一生懸命に色々な日本文化を教えてくださいと、青年や小学生たちとの交流をして、遊びながら学ぶというのは、とても良いシステムだと思いました。短い時間ではありましたが、子供たちも喜んでいました。国際交流センターの皆様も、とてもハードなスケジュールで、とても大変ではあったと思いますが、トラブルも無く終了出来たこと嬉しく思い、これからもこのプログラムを日系人である子供達にこのチャンスをぜひ経験して欲しいと思います。

これからも益々福岡県人会会員の皆様に福岡県に感心を持って色々な行事に参加してもらうことを伝えたいと思います。

Dグループ



ペルー福岡クラブ

竹下 クリスティ
Takeshita Kristy

プログラムのいろいろな活動で、前より日本の文化や習慣を知ることができました。印象に残った活動は茶道体験とうちわ作りと那珂小学校との交流です。

引率者として、日系の子どもと日本の子どもが文化と習慣、言葉などが違って何か共通点が見つかり、友達になっていくことを見て、とても感動しました。

この短い期間で他の国の日系人と一緒に過ごし、日本人だけではなく、いろいろな国の人と交流し、一生忘れられない思い出になりました。このプログラムに参加して、とてもよかったと思っています。

Eグループ



シアトル・タコマ福岡県人会

クリスティーナ スウェドナー
Christina Swadener

今まで気が付かなかった私自身の事についても新しい発見がいくつかあり、この 11 日間は、私にとって本当に貴重な体験となりました。

子供、大人などという年齢の国境を越えて、言葉の壁もなく、一所懸命お互いの生まれた国のことを学びながら、皆で一緒に楽しい時間を過ごしました。それは素晴らしいことだと感じました。

また、福岡県国際交流センターと家族会の皆様が連れて行ってくださった小倉城と漫画ミュージアムでのツアー、トヨタ自動車九州工場での見学や、福岡県議会副議長への表敬訪問など、普段あんまり足を運べないような所へも行き、とても興味深かったです。漫画を読むのが大好きな私は、ミュージアムで漫画について色々なことを学ぶことができ、とても勉強になりました。ホストファミリーと一緒に過ごした週末の3日間には、ご家族の皆さんが毎日ご馳走を作ってくださり、遠いところまで遊びに連れて行ってくださいました。買い物やお食事をして、温泉や三味線演奏会、そしてお祭にも一緒に行きました。本当に楽しかったです。こうした時間は、ホストファミリーと過ごした時間の中で、一番大切な時間でした。ホストファミリーの皆さんとは、これから先も、時々お互いの住んでいる街を訪ね合えるような、そんな素敵な友情関係でありたいと思いました。引率者として、福岡県で今度のプログラムに参加でき本当に嬉しく思っています。福岡県の文化や歴史も、今では少し知識が深まりました。今後は、今回の旅の経験を、私の地元シアトル・タコマ福岡県人会の仲間たちにも伝えていき、そして、旅の途中福岡で出逢った新しい友達を、シアトル・タコマの仲間たちにいつか紹介していけたらなと思います。

Eグループ



バンクーバー福岡県人会

千々和 千恵子
Chijiwa Chieko

12 日間という短い間に、友達になり、そして福岡県との絆を深めることができました。私は、福岡県と海外福岡県人会の将来はとても明るいと感じました。このプログラムに参加して特に感じたことは、福岡との絆を強めるには、人と人との交流を深めるのが一番大切なことと思いました。宗像市の子供たちとの色々なイベント、那珂小学校への訪問、竹下太鼓グループとの体験がすごく印象に残っています。福岡県家族会のご案内で福岡の魅力を知り、理解を深めることが出来ました。これらの交流により絆がより強まったと思います。またアメリカと南アメリカの引率者と交流ができて、とてもよかったと思います。それぞれの県人会の活動や現状を知ることができ、将来、お互いの県人会の交流をもっと強めていきたいと思っています。ホームステイでは、福岡での日常生活を見ることができ、参加した子供たちにはよい経験になったと思います。福岡県の親戚とまた会う機会がありましたので、カナダに戻っても、親戚付き合いを続けて行きたいと思います。都会と田舎の自然、未来の業界と昔からの伝統工芸など、色々見せていただき、福岡県の多様性がよくわかりました。歴史を守りながら、未来を明るくめざしていると感じました。招へいプログラムに参加出来た子供たちのエネルギーと好奇心を見て、私はこれからもバンクーバー福岡県人会の活動に参加し、将来も、県人会が明るく、熱意にあふれる会であるようにがんばっていきます。

F グループ



ハワイ福岡県人会

中村 ローリー
Nakamura Lori

2017年の県人会担い手育成プログラムは、私の心の中にずっと残るものになるでしょう。

福岡には経験すべきことがたくさんあり、またいろいろな企画の奥にある日本の方の勤勉さや寛大さ、優しさを直接経験できたことは有難いことでした。行く先々で従業員の方々は常に最高のものを追及されておられ、真摯にお世話して下さいました。那珂小学校では、素晴らしい歓迎を受け、全てがきちんと準備されていました。最初に、体育館では、生徒さんのまっすぐに伸びる列の間をステージへと歩いていき、どの学級も自分たちを紹介するものを作っていました。日本人がなぜ自分たちの行動に誇りが持てるのか理解しました。それは学校生活から始まります。昼食時、当番の生徒が学級のみんなに料理をよそっているのを見ましたし、終わってから自分たちで掃除をしているのを見ました。いずれも率先してやっていました。

リーダーと話をし、私たちは全て異なる国出身であっても、特別な繋がりがありません。大人だけでなく、子供たちも明らかに同じように感じていました。生徒たちは自分たちで、素晴らしい絆を作りました。知らない国へ行くという勇気、新しい文化に触れたこと、長く続く友情を育んだこの12日間を、子供たちは幾度となく思い出すでしょう。

この滞在で得た最も重要なことは、自分の出自とその出身地に誇りを持つということです。福岡の皆さんは提供するもの全てに誇りを持っておられました。福岡県からの移民の子孫に対して、“福岡”を体験する機会を提供して下さったことに深くお礼申し上げます。日本をこんなに素晴らしくしている大小さまざまなことに感謝しなければならないと目からうろこが落ちる思いでした。

F グループ



南加福岡県人会

増田 恩
Masuda Megumu

今回のプログラムに参加して得たこと、学んだこととして、まず第一に、福岡県の素晴らしさを改めて感じる事が出来た事です。昔から引き継がれている素晴らしい文化や風習、また現在展開されている教育やビジネス事業などを見学し、話を聞くことが出来、学んだことが沢山ありました。中でも那珂小学校訪問はとて心に残りました。これから国際社会がもっと発展していく中で、このような経験を子供のころから続けることができれば、将来世界で活躍できる日本人が福岡県から沢山出てくるだろうと思いました。第二に、それぞれの国から来た海外福岡県人会の子弟、引率者、そして県費留学生達と共に時を過ごし、沢山話し合えたことがとても良い学びになりました。それぞれの国で行われている福岡県人会の活動、並びに普段の生活、仕事、子育てなどを知ることが出来たのはとても幸いでした。互いに違う国、違う文化の中で生活しながら、ここ福岡県というつながりを共に持ち、それを通して経験したことを分かち合い、学び、互いに励まし合う機会が持てました。又、県費留学生が現在日本で体験している出来事、感じている気持ち、また将来への目標などを聞くことが出来たのは私にとってとても嬉しいことでした。県費留学生達と話しをしながら、自分が通った道を垣間見たように思える事が幾度となくありました。これからこの海外県人会との繋がりをもっと深め、将来の事業に活かしていただけることを願っています。

最後に、今回のプログラムで自分自身の核となるルーツがどこから始まり、これまでの自分にどのような影響を与えてきたのかを再度振り返る機会を得ました。又、これから私の地元ここ福岡をもっと良いものとするお手伝いをしたいと感じました。海外福岡県人会から派遣された幼い子弟たちもこの事業を通して、自分の家族の歴史、文化を再確認し、これからも福岡県との繋がりを大切にしていってほしいと願います。参加した子弟たちが将来ももっと福岡県を又日本を良くしてくれることを期待しています。

参加者レポート
福岡県移住者子弟留学生

Aグループ



ブラジル福岡県人会

福山 真伊
Fukuyama Mai

子弟招へいは子どもたち、引率者、県費留学生にとってとてもいい経験になったと思います。それぞれ違う国から来ているので、日本の文化、母国では体験できないもの(そうめん流し、うちわ作りなど、ブラジルにはない青少年科学博物館、地震が体験できる防災センターに行ったりなど)と触れ合うとてもいい機会でした。

福岡県国際交流センター、海外福岡県人会、家族会の人たちのおかげでハードスケジュールでもいい出会い、体験ばかりでとても楽しめました。私自身初めての事ばかりでいい刺激になりました。県費留学生として少しでもお手伝いできた事が嬉しかったです。

日本の小学校との交流があり、国、言語などの違いに関係なく仲良くしていた子どもたちを見て感心しました。副議長、知事代理の方たちと会えたり、議場を見学したり、とても貴重な体験もできました。

元気いっぱいな子、騒ぎすぎて怒られる子、ホームシックになる子、色々な子どもたちがいましたが、違う国の人たち同士で仲良くなっていました。最後は帰りたくなるぐらい福岡を好きになっていて、食事の時の「いただきます・ごちそうさま」などのような日本の文化を学ぶことができた素晴らしい事業だったと思います。皆さんお疲れ様でした、これからも子弟招へいが続く事を願います。

Aグループ



ブラジル福岡県人会

矢野 マルシア百 合江
Yano Marcia Yurie

ブラジル、ボリビア、ペルー、ハワイ、ハワイ島、シアトル、南加、コロンビア、カナダ、メキシコ、パラグアイから来た20人の子どもたちと10人のリーダーと出会えて毎日楽しく過ごすことができました。子どもたちを中心として宗像の小学生と交流し、八女で団扇を作り、色々な博物館に行き、トヨタ工場も行き、色々な福岡県の文化を体験できました。私も皆と一緒にいて嬉しかったです。

このプログラムで明らかになったことは、福岡県のことを学び歴史や色々な体験ができて、家族のルーツを学び、日本の文化とマナーを体験でき、色々な国の人たちと友達になり、子どもたちはいっぱい楽しい思い出を作って帰ったと思います。ユニークな体験で大切な事業だと思います。

私も皆と出会えて楽しい思い出もいっぱい出来ました。毎日の手伝いや、会議でお話しや、海外の話もとてもいい経験になりました。今回は天気が晴れて観光には良かったです。じめじめした暑さの中でみんな皆頑張りました。

これからも子どもたちがこの事業で出来た思い出を持って頑張っていくように願っています。

Bグループ



在ボリビア福岡県人会

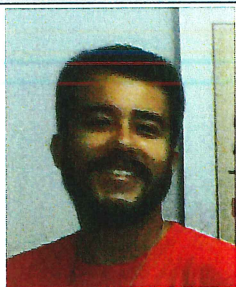
徳永 アレハンドロ 勇一
Tokunaga Alejandro Yuichi

1 2日間といった短い期間ですが、この行事に参加させていただきました。自分も参加者として9年前、日本に来ました。それを聞いた子どもたちが自分たちもまた日本に戻ってきたい、中には日本語をあまり話せない子がいたのですが、この機会を得てもっともっと日本語がうまくなりたいと言っていたのがとても嬉しかったです。

初めは、皆さん長旅と親の手を離れ2週間を過ごさなければいけないということで不安な表情を浮かべていました。中にはホームシックになったりする子もいて、自分はどう接していいのかわかりませんでしたので、とても情けなく感じました。引率者がいてくれて助かりました。日が経つごとに子どもたちは、言葉が通じなくとも、あれやこれやという手で友達を作っていました。言葉がなくとも友達になっていく子どもたちは逞しいです。友達と遊んだり、買い物をしたり、笑いが絶えない日々を送っていました。何事も起きず無事に子弟招への行事も終わり、空港に見送りにいきました。子ども達は寂しそうな顔をしており、お別れのときが来ると涙を流す子もいました。

短い間でしたが子ども達が毎日元気に色々な行事を楽しんでいるのがわかりました。子弟招へいに参加して子どもたちが友達になるのに言葉はいらないと言っているようで、いい経験をさせていただきました。

Cグループ



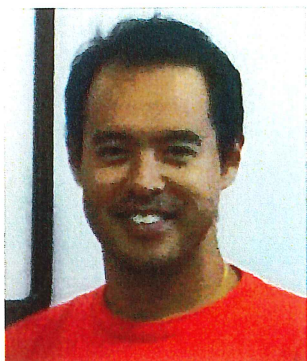
メキシコ福岡県人会

谷川 フロレス ホアン カルロス
Tanikawa Juan Carlos

僕は平成 26 年度引率者としてこのプログラムに参加しました。今回のように多国から来た日系人の子ども達と引率者と県費留学生と一緒に一週間半ぐらい過ごして交流しました。その頃僕が習ったのは、日本の礼儀、整理整頓と責任感です。

今年は役割が変わって、県費留学生としてもう一度参加しました。見解も変わったと思います。なぜなら、今回の経験と三年前に比べると三年前のほうが浅はかだからです。時間の短さか日本語の理解が成熟の所為かよく分からないが、何か足りない気がしてメキシコに帰国したのは事実です。義務感を持っていて、母国と日本に色んな意味で懸け橋になるのは良く分かっているが、個人的に日系人というのは何だろうかと理解したかった。しかし、真の答えを見付けられなかった。しかし、今年の県費留学生と一緒にみんなでサポートして見付けたと思う。日系人とは成長。日系人は本来居場所づくり。日系人とは状況による一人と社会に便乗する。そして、最後に、このプログラム通して、特に子どもたちも、私が築いたように日系人としての役割を少しでも理解してくれたことを私は願っている。どうもありがとうございます。

Dグループ



ペルー福岡クラブ

竹下 ケニー

Takeshita Kenny

このプログラムは、とてもいい経験になりました。10日間いろんな国の子どもたちと引率者たちと一緒にいろんなイベントに参加できてとても仲良くなれました。このプログラムではブラジル、ポリビア、バンクーバー、コロンビア、ハワイ、南加、メキシコ、パラグアイ、ペルーとシアトルから子どもと引率者が来ました。

最初は、子どもたちはあまりみんなと話さなかったけど、イベントに参加したり、グループですごしている間にみんなとても仲良くなっていました。このプログラムではいろんな場所に行きました。宗像大社、いのちのたび博物館、小倉城、トヨタ工場、八女伝統工芸館などに行きました。そして副議長と知事代理の人たちと会えたり、新幹線に乗ったり、短かったけどとてもいい経験になりました。

一番思い出に残っていることは那珂小学校に行った日でした。小学生たちと遊んだり、母国の紹介をしました。また、カヌー体験の日もとても楽しかったです。その日はとてもいい天気、もし雨が降ったらキャンセルになっていました。最初に子どもたちはカヌーをしましたが、後でフリータイムの時に、みんなと一緒に海の中で遊んで、とても楽しかったです。

ペルーの子どもと一緒に小学校と送別会で、母国の曲をギターとチャランゴをつかってひきました。ペルーの子どもはよくチャランゴを弾いて、聞いていた人たちは喜んでくれました。

プログラムが終わるころには、子どもたちが日本でとてもいい経験をし、みんなと仲良くし、日本文化を学ぶ事が出来て母国へ帰れたと思います。自分たちもとても楽しめて、短い期間でも新しい友達が出来て、いつか引率者としてまたこのプログラムを手伝いたいと思います。このプログラムは海外の子どもたちにとって自分のルーツである福岡でいろんな経験をして、文化を知ることができるととてもいい機会です。

Dグループ



ブラジル福岡県人会

太田 砥綿 マリアナ 絵理

Ota Towata Mariana Eri

私は、このプログラムが始まる前に先輩達から色々な意見を聞いて、県費留学生には大きな責任があると言われていたので、悩んでいました。例えば子どもが色々な国から来て、その子たちと言葉が伝わらないとどうしたらいいのか、ホームシックになったら何を言ったらいいのかを考えていました。

私が参加したDグループではスペイン語と少し英語が出来る子どもがいました。私はスペイン語は分かるけど話すことが出来ないのでもっと大変でした。子ども達にとって、最初は日本語で自己紹介をするのは難しかったけれども、2、3回、頑張ったら、凄く上手になりました。それと食べる時に「いただきます・ごちそうさま」をちゃんと学んで、いい習慣を母国に持って帰れたと思います。

子どもは違う国から来て、違う言葉であっても友達になりました。一緒に福岡を知って色々な経験が出来ました。またそれぞれの国で勉強を頑張って、県費留学生として福岡に戻って来ることが出来るように願っています。

Eグループ



トロント福岡県人会

合戸 祐
Godo Sachi

私がこの事業で最も得たものは、世界各地の日系ネットワークとの正式な事業の楽しみ方です。日系の大人と接する機会は何度かありましたが、これだけたくさんの国と幅広い年齢層の日系人と接触するのは今回が初めてでした。大人だけではなく、子ども達が小学生にもかかわらず、電話番号やメールアドレス、顔写真まで付いた名刺をくれたおかげで、福岡県人会を通して、これからも繋がりが続けられる自信があります。

12日間、多国からの子ども達と両親不在の遠い外国で、一緒に生活する重みは、この事業を通さなければ考えさせられることもなかった気がします。最初は何事も深刻に考え、タイトスケジュールのため、焦って物事をこなすことが一番このプログラムにとって貢献できる鍵だと信じていましたが、焦って結果を求めることだけを重視するより、むしろ落ち着いて楽しみながら、慎重に物事をこなしていく方がストレスも溜まりづらく、良い結果が出ることがわかりました。

私がこの事業で最も学んだことは、教育と文化交流の大切さです。こういった特別な環境であるからこそ、大人としての責任も重大で、外国での安全やマナーはもちろん、挨拶やプレゼンテーション、ホームシックになったときの教育や指導は特に大切に感じました。子どもはこの事業を行うことでどういった効果を期待しているか、完全にはわからないからこそ、この機会に参加できることがどんなに恵まれているのか認識でき、しっかり伝えられる身近な大人がいることで、今後の効果が大きく変わっていくと思えました。

このプログラムは、主役の子ども達はもちろん、参加者全員が福岡のルーツを認識できるとても良い機会だと私は信じています。福岡という特別な環境で、数々のことを学んだ人たち全員が、これからも福岡の未来に貢献し続けることを私は願っています。

Fグループ



ハワイ島福岡県人会

岩崎 ケリー カオリ
Iwasaki Kellie Kaori

5年前に私の弟がこのプログラムに参加する機会がありました。弟はプログラム後にハワイに帰った後も、このプログラムが自分の人生を変えた話をよくしていました。大学に応募し始めた今でも、弟はそのとき挑戦したことや感じた喜びのことをよく書いています。そのため、県費留学生としてこの子弟招へいプログラムに参加することを楽しみにしていました。

10日間、驚くほどたくさんの楽しい活動をしました。たとえばトヨタの工場に行ったり、ながしそうめんをしたり、小倉城に行ったり、福岡市民防災センターに行きました。子どもたちは、宗像市の小学生との交流で自分の国のプレゼンテーションもしました。毎日忙しかっただけで楽しかったです。

私は頼まれた通訳を手伝いたかったけれど、日本語がわからず話せなかったのも、とても大変でした。ホームシックを経験していた子ども達を手伝うのは、ちょっと難しかったです。私は子どもたちが落ち着けるよう頑張りましたが、こういうことに挑戦することで、子どもたち自身の成長にもつながると思えました。

私は、子ども達が、これからもずっと人と人との関係の価値をいつまでも覚えていることを願っています。このプログラムは、私に引率者と留学生が、子ども達の学習経験にどれだけ大切かを教えてくれました。この事業は、子ども達にとって日本文化を体験し、福岡のルーツを探ることができるいいプログラムだと思えました。

福岡県出身の移住者やその子弟等で 構成される海外の県人会について

■福岡県の海外移住

(1) 海外移住の始まり

明治18年(1885年)のハワイ移住により始まり、132年を経過

(2) 海外移住者総数(自由移民を含まず)

戦前(明治32年から昭和16年) 51,240人(全国比7.8%)

戦後(昭和27年度から平成5年度) 4,536人(全国比6.2%)

※戦前・戦後計 55,776人(全国第4位)	第1位 広島 98,975人
	第2位 沖縄 79,454人
	第3位 熊本 72,699人
	第4位 福岡 55,776人
	第5位 山口 47,430人

■海外の福岡県人会 9カ国20県人会



県人会担い手育成招へい事業 実施要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、県人会担い手育成招へい事業の実施に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 この事業は、移住者及びその子孫からなる海外福岡県人会(以下「県人会」という。)会員の子弟及び青年リーダーを本県へ招へいし、様々な体験を通じ、福岡・日本に対する関心や興味を高め理解を促すことにより、今後の県人会活動の一翼を担い、福岡・日本との交流の核となる後継者を育成すること、併せて県人会の活性化を図ることを目的とする。

(事業内容)

第3条 前条の目的を達成するため、次の活動を基本とする事業を実施する。

- (1) 同年代の子どもたちとの交流
- (2) 福岡の魅力に触れる
- (3) ルーツを探る
- (4) 日本文化の体験

(招へいする子弟の条件)

第4条 子弟は次の各号に掲げる条件を備えるものとする。

- (1) 招へい事業の目的を理解していること
- (2) 海外福岡県人会会員の子弟であること
- (3) 年齢は招へい期間中に原則満11歳であること
- (4) 各自で親戚宅等のホームステイ先を原則確保できること
- (5) 心身共に健康であること
- (6) 日常の身の回りのことが一人でできること
- (7) 自国の文化や社会、生活様式について紹介ができること
- (8) 募集要項に定める注意事項を遵守できること
- (9) 以前に当プログラムに参加したことのない子弟であること

(青年リーダーの参加条件)

第5条 招へいする子弟は青年リーダーが帯同するものとする。

2 青年リーダーは次の各号に掲げる条件を備えるものとする。

- (1) 招へい事業の目的をよく理解していること
- (2) 招へい期間を通じて子弟の指導や援助ができること
- (3) 海外福岡県人会の会員であること
- (4) 招へいする子弟の原則祖父母、父母、兄、姉、伯父(叔父)、伯母(叔母)ではないこと
- (5) 年齢は招へい期間中に原則20歳以上50歳未満であること
- (6) 日本語でコミュニケーションがとれ、子弟とホストファミリーその他の関係者との間の通訳ができること
- (7) 各自で親戚宅等のホームステイ先を原則確保できること
- (8) 事業終了後、海外福岡県人会活動に積極的に参加すること
- (9) 以前に当プログラムに参加したことのない引率者であること

(申請書の提出)

第6条 招へい事業の参加希望者は、県人会担い手育成招へい事業参加申請書(様式第1号)もしくは引率申請書(様式第2号)に親権者の承諾書(様式第3号)を添え(親権者の承諾書の添付は子弟の場合のみ必要)、海外県人会長(以下「県人会長」という。)に提出しなければならない。

2 県人会長は、前項の申請者の提出があったときは、推薦書(様式第4号)を添えて、公益財団法人福岡県国際交流センター理事長(以下「理事長」という。)に提出するものとする。

(選考及び招へい者の決定)

第7条 理事長は、招へい者を決定するため、県人会担い手育成招へい事業招へい者選考委員会(以下「選考委員会」という。)を設置する。

2 理事長は、選考委員会の選考結果の報告を受け、招へい者を決定する。

3 理事長は、招へい者を決定した場合、すみやかに招へい者に対し、県人会長を通じて、招へい事業参加決定通知書(様式第5号)を交付する。

(選考委員会)

第8条 前条の選考委員会は、委員長、副委員長及び委員で組織し、それぞれ別表に掲げる職にある者を充てるものとする。

2 選考委員会は、委員長が招集し、開催する。

3 選考委員会の運営に関し、必要な事項は委員長が定める。

(経費)

第9条 招へい者の往復の航空運賃及び福岡での滞在に係る経費については、公益財団法人福岡県国際交流センターが負担する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、事業の実施に関し必要な事項は、理事長が別に定める。

附則

この要綱は、平成29年5月1日より施行する。

2017.7.7~ 18

Short Term Visit Program for
Young Descendants of Immigrants
from Fukuoka Prefecture